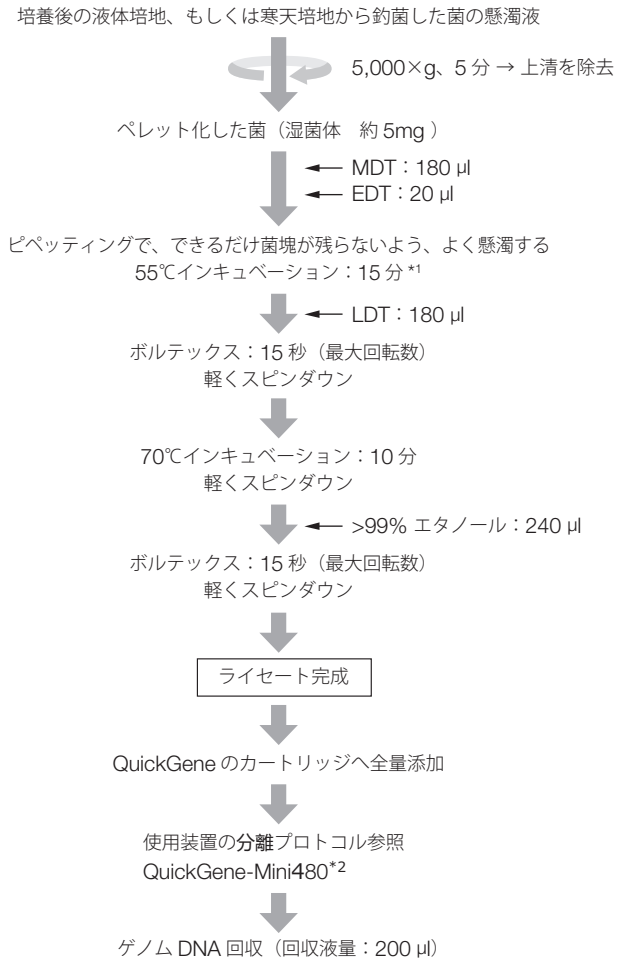


緑膿菌 (*Pseudomonas aeruginosa*) からのゲノムDNA分離

プロトコル



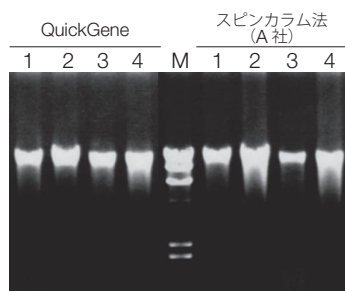
*1 この時菌塊が残ってれば、ピペティングで菌塊を壊し、再度インキュベートする。

*2 本事例は旧機種で取得したデータも含まれます。その他QuickGeneシリーズでもこのプロトコルをご参考頂けます。

結果

- 菌株 No.1 : S792 (血清型 G)
 菌株 No.2 : S728 (血清型 G、ムコイド株)
 No.3 : S715 (血清型 E)
 No.4 : S1067 (ラフ株)

電気泳動図



電気泳動条件 : 1.5% アガロース / 1 × TAE

M : λ -Hind III

- 1 : No.1 S792 (血清型 G)
 2 : No.2 S728 (血清型 G、ムコイド株)
 3 : No.3 S715 (血清型 E)
 4 : No.4 S1067 (ラフ株)

分離したゲノム DNA に分解は認められなかった。

ゲノム DNA の収量

サンプル	No.1	No.2	No.3	No.4
QuickGene	11.4 µg	12.4 µg	10.0 µg	14.0 µg
スピнкаラム法 (A 社)	10.8 µg	14.0 µg	7.4 µg	13.0 µg

タンパク質の混入：A260/280

サンプル	No.1	No.2	No.3	No.4
QuickGene	2.23	1.90	2.31	2.18
スピнкаラム法 (A 社)	1.96	1.78	1.93	2.12

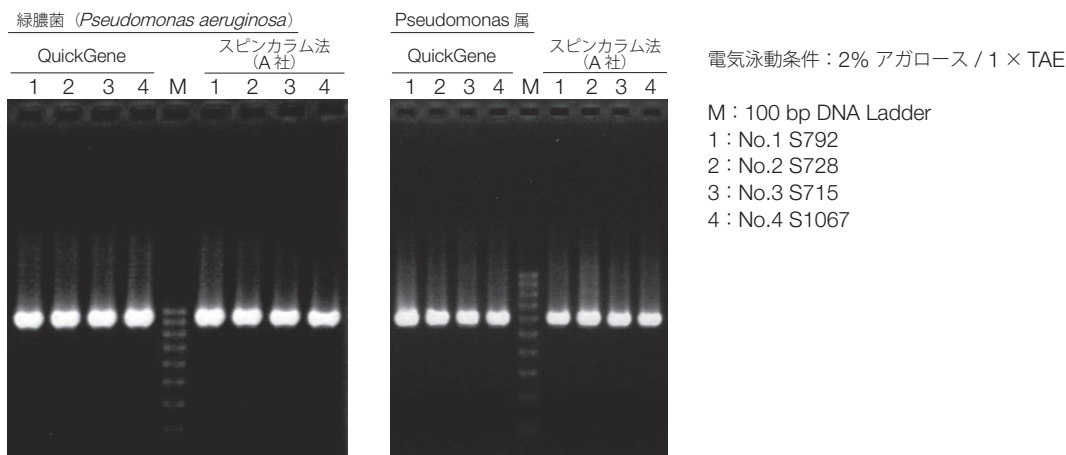
カオトロピック塩の混入：A260/230

データなし

その他

● PCR

QuickGene システムおよびスピнкаラム法 (A 社) を用いて緑膿菌菌体から分離したゲノム DNA で、16srRNA 遺伝子の検出を、緑膿菌 (*Pseudomonas aeruginosa*) に特異的なプライマーおよび *Pseudomonas* 属特異的なプライマーを使用した PCR により行った。



いずれのゲノム DNA でも PCR 産物を検出できた。

共通プロトコルサンプル

淋菌 (*Neisseria gonorrhoeae*)、ピロリ菌